

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念 「一人一人の生活を大切に！」	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず理念を伝え、その後もミーティング時には、理念に触れ、その実践に向け具体的なケアについて話し合っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、家族会・家族面談や訪問時に繰り返し伝えている。また活動状況を掲載した広報を年2回、ミニ広報を毎月発刊し、ご家族・地域の方々に配布している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出かけ、農作業をしている方や出会った方との会話が出来るよう努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会やお祭り等には、利用者と共に参加し、また夏休みには、地域の子供達がホームの庭に集まり、一緒にラジオ体操を行い、終了後一緒にお茶やジュースを飲み、ふれあうひとときをつくっている。	<input checked="" type="radio"/> 今後も地域の行事や活動に積極的に参加し、地元の人々との交流に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として、実習生の受け入れは行っているが、地域に向けての取り組みは出来ていない。	○	地域の研修や会合に参加し、認知症ケアの介護予防等に取り組みたい。 地域の高齢者とのふれあい交流の場にするため、通所サービス利用者や近隣の高齢者にグループホームを紹介していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の結果を踏まえ、ミーティング時に改善に向けて具体案の検討を行い、実践している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果は、運営推進会議で報告し、そこで出た意見を取り組みの参考としている。また現在の取り組みについても報告し、意見をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の活動報告・行事予定を掲載したミニ広報を発刊し、毎月届けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度等については、現在必要なケースが無いため、職員は理解できていない。	○	成年後見制度等の勉強会を開催したり、研修会に参加して、制度の理解と今後の対応に役立つよう、資質の向上を図っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、どこまでが虐待になるのか等十分理解していないところがある。	○	虐待防止についての勉強会を開催したり、研修会に参加して、制度の理解と今後の対応に役立つよう、資質の向上を図っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間を取って丁寧に説明し、利用者の状態変化により契約解除の際にも、今後の対応についても十分に話し合っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望を出してもらい機会として、ご意見箱の設置、また個々に出された意見や要望はきちんと受け止め、運営や日々のケアに活かしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ミニ広報を発刊し、連絡事項を添え、ご家族に郵送している。また3ヶ月に1回、介護計画の見直しと共に家族面談を行い、利用者の生活状況をスライドや写真を見ながら報告している。	○ 面会の少ないご家族に、利用者の近況を知らせる頻度を増やしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、また来所の際には声をかけコミュニケーションに努め、意見の言いやすい環境作りに努めている。また家族会では、職員が席を外し、家族同士で話し合う時間を取っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを行い、それぞれの職員の意見や提案を聞き、運営に役立てている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の個別の要望にも対応するため、随時勤務調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの環境を作るため、異動は最小限とし、新入職員は利用者で紹介し、スムーズに受け入れてもらえるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は交替で外部の研修に参加し、また母体の老健で講師を招き行われる研修にも参加している。ホーム内では、月1回緊急時対応・衛生管理・介護技術等の勉強会を行い、またグループ研究にも取り組んでいる。	○ 介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得に向けて、自己研修、ホーム内外の研修に積極的に参加させ、資格取得を促すと共に、職員の資質向上を図りたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは連絡を取り合い、ホーム内見学・実習を行い、意見交換を行っている。	○ 今後、定期的に職員が相互訪問し、見学、実習できる体制を整備していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員のストレスや悩みを把握するよう努めているが、まだまだ不十分である。ストレス解消のため、連続休暇を増やしたり等の具体策を検討中。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれの職員の得意分野を伸ばすことが出来るような担当の位置づけを行い、またそれぞれの職員に担当利用者をつけ、責任感を養いつつ、向上心をもって働けるように努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談時、これまでの生活状況を確認・把握し、現在困っていることや希望されることを理解した上で、安心して希望に添った生活ができる環境づくりに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の希望とは別に、ご家族の希望や困っていることを確認・理解し、今後のケアに努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者及びご家族の希望や状況を確認し、可能な限り柔軟に対応を行い、場合によっては居宅介護支援事業所にも相談している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者やご家族に見学にきていただき、また職員が家を訪問したりしている。日中のみ生活してもらい環境に馴染んでいただくこともある。	○	徐々にホームの生活に馴染んでいただけるよう、体験入所サービスを実施したい。 将来的には、短期入所サービス体制を整備したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「介護する人、される人の関係ではなく、人と人として関わる」「私たちはリビングパートナー」という言葉を職員教育に組み込み、家族としてまた人生の先輩として接することを心掛けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望・思いを理解し、一緒に利用者を支えるための協力関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には楽しくひとときを過ごせる環境をつくり、また遠足やその他の行事にも一緒に参加していただいている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や墓参り、近所の神社へのお参り等を希望される方に、個別外出を行っている。	○	利用者の希望を聞きながら、個々に外出する機会をもっと増やしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなど、職員も一緒に入り、利用者同士の関係がうまくいくよう、見守り・支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先や自宅を訪問したり、また行事への案内を行い参加していただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時には利用者も参加し、できる限り希望される生活実現に向けての支援を行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に自宅を訪問し、これまでの生活環境を把握し、入居後も利用者との会話の中から、またご家族から話を聞くなどして、今までの生活の様子把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、日頃の言動からその人全体の把握に努めている。また生活の中で、できることの確認も随時行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を聞き、その他関係者の意見を含めて、課題となることをスタッフ全員で話し合い、本人の希望する生活ができる介護計画の作成に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実行の状況や効果などを定期的に評価すると共に、状態が変化した場合や、本人・ご家族の要望に応じて随時見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の状態、利用者の言動、その他気づいたことなどを個別のファイルに記録している。また特に申し送りが必要な事柄は、その日の日誌に記録し、申し送り、毎日の業務開始前に個々でも確認している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者やご家族の希望や状況に応じて、受診・リハビリなどの通院や個別の外出等を行い、個々の満足を高めるよう努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員が毎月訪問して下さり、歌や舞踊を通して楽しいひとときを過ごし、意見交換等も行っている。また地域の図書館に定期的に通い、本を借りてきている。	○	警察、消防等に広報等を配布し、現況の報告をしたり、わかかさに立ち寄ってもらえるよう要望していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域事業所のケアマネとは、定期的に話し合う機会を持っている。現在美容サービスとして、美容師が訪問し、カット・セット・顔の手入れなどのサービスを受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、情報交換、協力体制を築きつつある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族が希望するかかりつけ医に、定期的にまた状態にあわせて随時受診している。体調変化がある時は、ご家族にも同行してもらい診察結果を聞いてもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受信時に認知症に関する相談を行いながら診察を受けている。また年1回物忘れ検診を受けている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。また看護職員がいないときでも、24時間気軽に相談できる体制をつくっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には利用者の支援方法に関する情報を医療機関に提出し、頻繁に見舞い、健康状態を把握するようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応方針、看取り介護について説明を行い、同意をいただいております。希望される方は入院後も急性期が過ぎればホームに戻り療養していただいております。	○	今後も利用者・ご家族の意向を確認しつつ、状態変化があるごとにご家族の気持ちの変化や利用者の思いに注意を払い、終末期の支援につなげたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族の意向を大切に、利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう、医療機関との連携体制をつくり、職員の知識向上にも取り組んでいる。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院や他の事業所に移られた場合、アセスメントやケアプランを送り、情報提供を行っている。	○	今後より細かくスムーズに情報提供ができるよう、現在センター方式のアセスメント作成に取り組んでいる。担当の居宅介護支援事業所とも連携を密にし、スムーズに移れるよう努めていく。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意を訴えない利用者にも、時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後3時から8時の間を入浴時間としているが、それ以外も希望や状態に応じ、随時入浴している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	家事・外出・レクリエーション等のあい間に、それぞれ居室やソファ・畳の上で自然に休憩が取れている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力が発揮できるよう、買い物・調理・野菜切り・漬け物作り・菜園・芝生の水やり・手すり拭き・カレンダーめぐり等能力にあった役割を持ち、また手芸・書道・俳句・カラオケ・詩吟など自分の趣味にあったクラブ活動に参加している。遠出の外出や外食も利用者の希望を聞きながら行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ小遣い程度のお金を持ち、買い物時自分で支払いをしたり、また職員が管理して支払い時に手渡したりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物・お墓参り等、その日の希望に応じ個別または少人数で出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全体での外出・小グループの外出・個別外出に分け、希望を聞きながら、ご家族にもご協力いただき行っている。個別外出の希望は、自宅やその周辺など馴染みの場所が多い。ホーム周辺の散歩は自由にできるように環境を整え、見守りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に自由に電話できるよう支援し、友人と手紙のやり取りをしたり、遠くの親戚に手紙を出すなどの支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族が親の家を訪れるよう、気軽にゆっくと過ごせる雰囲気作りに努めている。また時には一緒に食事をしたり、泊まっていたりもしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束によって生じる身体的・精神的弊害を理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。また日々のケアの中で自覚しにくい拘束、言葉による拘束等についても話し合い、注意を払っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない開放的な環境をつくり、利用者が一人で外出しそうな時には、後ろから安全面に配慮しつつ同行し、状態を見ながらさりげなく声かけし、納得の上ホームに戻る等、自由な暮らしの支援をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者と同じフロアの全体が見える位置で記録や作業を行うようにしている。また夜間はフロア・廊下の見通せる位置で、起きられた時にすぐ対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・ハサミ等は置き場所を決め、必要時は、利用者と一緒に使用できるようにしている。夜間は包丁類は鍵のかかる戸棚に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫をしている。またヒヤリハットや事故報告書を記録し、今後の予防対策を検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	リスクマネジメント委員会を設け、3ヶ月ごとに転倒・骨折・のどの詰まり・意識消失発作等の緊急時対応について、勉強会を行い、また緊急連絡体制も整え、その訓練も実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震・台風等のマニュアルを作成し、避難訓練や消火器の使い方、ビデオでの確認等、利用者も一緒に年4回の訓練を実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由な暮らしの大切さとホームの取り組みについて理解していただき、一人ひとりに起こりうるリスクについての対策を家族面談時に説明している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは毎日定期的に行い、普段の状態を把握した上で、食欲・顔色・動作等に様子変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、看護師の指示の下、必要時は病院受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更されたときは、申し送りノートに記録し職員全員が確認できるようにしている。また医療に関するファイルを個別につくり、必要時は随時確認するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため繊維質の多い野菜を選んだり、毎日ヨーグルトを作り摂取するようにしている。また散歩や家事活動で体を動かせるよう心掛け、自然排便できるよう取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、状態に合わせて準備、介助を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、それぞれの状態を把握している。糖尿病・貧血・高血圧の利用者については、医師の指示の下、母体施設の栄養士と相談している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防対策マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い実行している。またインフルエンザは毎年予防接種を実施している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は毎晩漂白し、冷蔵庫や食品庫の食材の残り物点検を毎日行っている。また台所や水回りの清潔・衛生、食品管理、食中毒等について定期的に勉強会を行っている。	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチ、中には花や植木等を置き、明るい親しみやすい雰囲気作りに努めている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けを行い、自分たちで作成した手作りの花など置き、心地よく過ごせるよう工夫している。また食事前には、ご飯の炊ける匂いやおかずの匂いがして家庭的な雰囲気がただよっている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファでゆっくり座り、また畳の上で横になれるスペースもあり、それぞれの気に入った場所でゆったり過ごせるよう工夫している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル・こたつ机やカーペットを好みに合わせて配置し、また鏡台を置いておしゃれをしたり、それぞれに居心地よく過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日時間を決め換気を行い、トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ないようにしている。また温度調節は外気温に合わせてこまめに調節している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間の必要な場所に手すりを設置し、洗面台や蛇口の位置も使いやすいように工夫している。椅子はキャスターの付いているものと付いていないものを状態に合わせて使い分けしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活の中で、一人ひとりのわかることわかりにくいことを確認しながら、混乱が起こらないよう工夫している。また混乱の原因が確認できれば、それを除去できるよう努力している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに椅子やテーブルを置き、利用者がひなたぼっこをしたり、周りの芝生の上を散歩し、花や菜園の手入れなどできる環境をつくっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・開放的な環境で、自由に生活していただいている。
- ・利用者一人ひとりの希望する生活ができるように、また利用者一人ひとりのできる力が最大限に発揮できるよう取り組んでいる。
- ・利用者に自治会があり、そこから出された希望や要望を受け止め改善している。
- ・看護師を配置し、毎日の健康管理状況を医療日誌に記録し、また医療機関との連携を密に行っている。
- ・利用者の生活の向上および職員のスキルアップ・チームワークづくりを目指し、グループ研究に取り組んでいる。